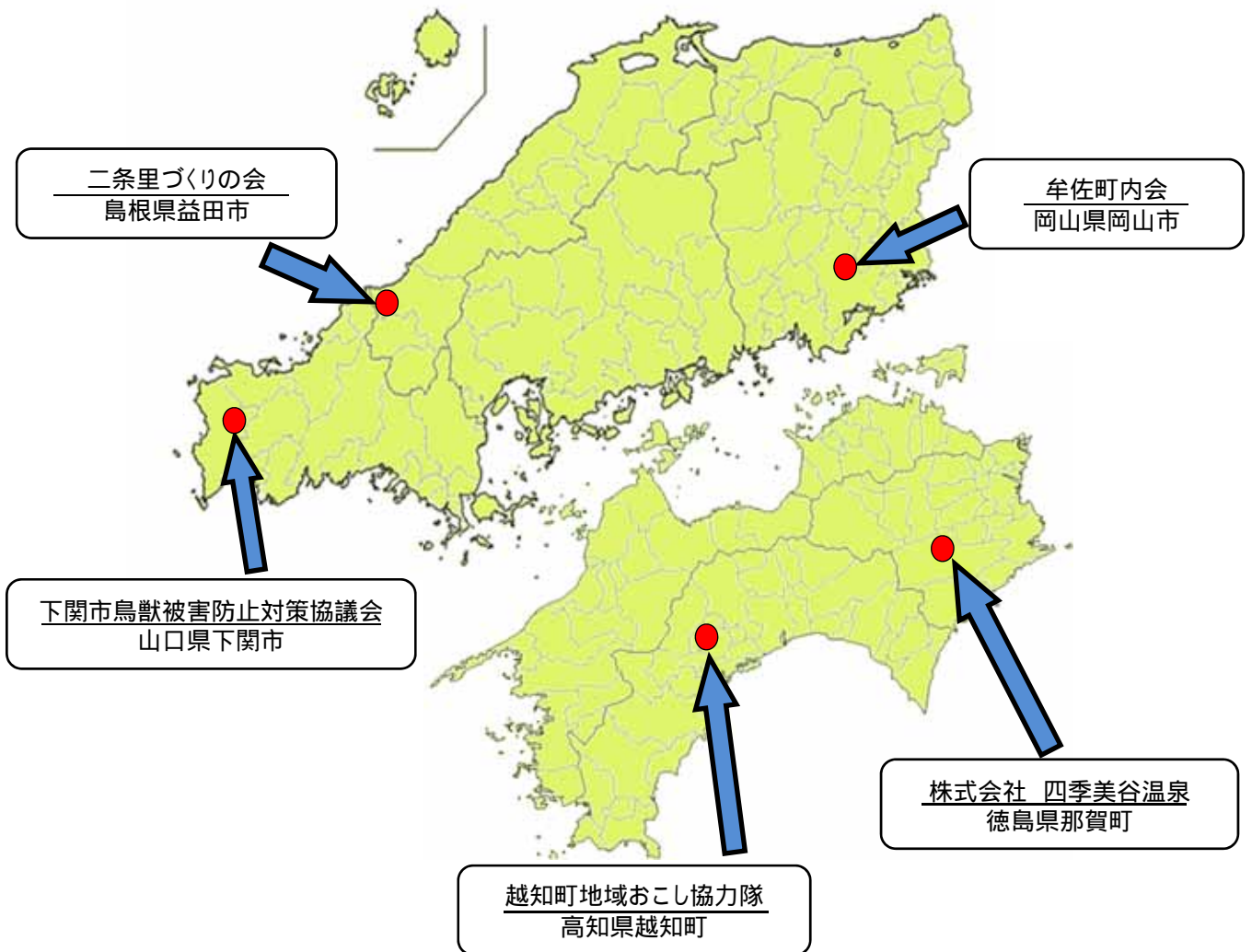


平成29年度

中国四国地域鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の取組概要



中国四国農政局
農林水産省

二条里づくりの会

・二条里づくりの会(島根県益田市)

自治会と猟友会が中心となって、地域自治組織「二条里づくりの会」を立ち上げ、追い払いや防護柵設置、放任果樹の伐採など総合的な鳥獣被害対策を実施するとともに、ICT・IOT技術※を積極的に活用

※ IOTとは、Internet of Things の略で、パソコンやスマートフォン、タブレットといった従来型のICT端末だけでなく、様々な「モノ」がセンサーと無線通信を介してインターネットの一部を構成すること。

【活動の動機・発展過程】

- 当初、有害捕獲による駆除は、地元猟友会に任せていたものの、効果が実感しづらく、また、防除活動の正しい理解が地元住民等へ浸透しなかった。こうした中、平成26年に地域自治組織である「二条里づくりの会」を立ち上げ、自治会・猟友会が中心となって、普及啓発活動を継続して取り組んだ。

【活動の内容】

- 「二条里づくりの会」では、鳥獣出没情報を地域で共有し、防護柵の設置、追い払い活動、放任果樹の撤去、捕獲活動に役立てた。
- 捕獲活動は「二条里づくりの会」の「くらし部会員」として活動し、ジビエとして利用できる捕獲個体は解体処理をして、地域のイベントや県内外で販売を行っている。
- 以前は箱わなでサルの捕獲を行っていたが、捕獲効率が悪く、管理作業が負担となっていた。このため、ビニールハウス等の廃材を利用した大型箱わなを自作し、ICT技術搭載の監視カメラと捕獲作動システムを導入して多頭捕獲が可能となった。
- 「二条里づくりの会」主催の研修会を年2～3回開催し、地域住民の意識改革や技術力向上を図り、外部からの視察や研修にも協力している。

【活動の成果】

- 柵で防除している畑では被害がほとんど発生していない。
- 有害鳥獣捕獲数：イノシシ29頭、サル4頭、鳥類29羽、中型獣63頭(H28)
- イノシシの食肉処理量：60頭、約1,500kgを販売(H28)

【今後の活動方向】

- 新規就農者向け被害対策講習会の実施などにも取り組んでいく。



大学生の放任果樹管理体験



古材を利用したサル用大型箱わな

下関市鳥獣被害防止対策協議会

・下関市鳥獣被害防止対策協議会(山口県下関市)

本州の最西端にある下関市における鳥獣被害は、平成25年に1億8千万円まで増加していたが、鳥獣侵入防止柵の整備、捕獲従事者の確保、ジビエの振興等の対策を実施することで、鳥獣被害を減少させている。

【活動の動機・発展過程】

- 地域ぐるみで取り組む被害対策の必要性について理解を促し、鳥獣侵入防止柵の整備を進めながら、合同・共同捕獲を実施してきたが、高齢化等による狩猟者の減少、捕獲従事者の育成・確保が課題であった。こうした中、捕獲従事者の負担軽減と捕獲意欲の向上を図ること等を目的に、食肉処理施設「みのりの丘ジビエセンター」を平成25年に開設。

【活動の内容】

- 平成21年度から、市単独事業で毎年1万5千㎡に及ぶ鳥獣侵入防止柵を整備。
- 捕獲対策として鳥獣被害対策実施隊向けにわなの貸し出しや、隣接する長門市の猟友会と連携し、シカ等の一斉捕獲を平成19年度から実施している。
- モンキードッグの導入実証に平成21年度から取り組み、これまで延べ20頭が認定。現在も12頭がサルの追い払い活動に従事している。
- 食肉処理施設「みのりの丘ジビエセンター」を平成25年に開設し、捕獲鳥獣の食肉利用を推進しており、ジビエ肉の消費拡大を目指して、各種イベントでの試食会の開催や、市内ホテルの協力を得てジビエ料理教室やジビエ料理コンテストを開催している。
- 一般向けに「狩猟体験ツアー」を開催し、市民に対してわなの設置体験や捕獲獣の解体、ジビエの試食など鳥獣害対策の必要性についてPRを行っている。

【活動の成果】

- 捕獲頭数が増加する中、平成27年度にはピーク時から被害金額で約4千万円が軽減した。
- サルについては平成28年度は過去最高の捕獲頭数。

【今後の活動方向】

- 地域住民と一体となって鳥獣侵入防止柵等の維持管理を徹底し、ICTを活用した捕獲檻や大型囲いわな等の先進技術を積極的に導入しながら捕獲活動を推進し、農家自身による自立できる経営体と集落の育成を図っていく。



シカの一斉捕獲



ジビエ料理教室

越知町地域おこし協力隊

・越知町地域おこし協力隊(高知県越知町)

若手の女性2名が、有害鳥獣対策を専門とする地域おこし協力隊員として採用され、地元
に密着した活動で貢献している。

【活動の動機・発展過程】

○ 狩猟者の減少・高齢化の問題を抱える中、越知町では平成28年に鳥獣被害を担う地域おこし協力隊員として若手の女性2名を採用した。2名はすぐに銃猟免許とわな猟免許を取得し、積極的に地元の狩猟者との交流を持ち、先達から技術を継承された。

【活動の内容】

- 役場に寄せられる鳥獣被害の相談に対して、先輩猟師とともに被害現場での指導に当たるほか、わなの設置や地元猟師への情報提供を行っている。これら地域に密着した活動を行う中で、報告されない被害も多く存在することが分かり、きめ細かい被害対策を推進している。
- サル被害対策や有害鳥獣処理施設の先進地視察で得られた情報を地域に持ち帰り、対策を検討している。
- いのしし汁を地域住民にふるまうことで、ジビエ料理のイメージアップを図るとともに、地域住民との繋がりが深くなり、鳥獣被害の情報収集を行っている。また地元のイベントでは、射的を行い、狩猟や猟師というものを身近なものとして宣伝できた。
- 狩猟フォーラムのパネリストに参加し、若手ハンターとして県下全域での新規狩猟者の確保に協力している。

【活動の成果】

- 有害鳥獣の駆除や啓蒙活動によって被害の軽減に貢献。
- 新規狩猟者の確保に向けたPR。

【今後の活動方向】

- 地元密着した活動を今後も継続し、新規の狩猟者確保のための啓発活動にも協力していく。



イノシシの解体作業準備



狩猟フォーラムにパネリストとして参加

牟佐町内会

・牟佐町内会(岡山県岡山市)

岡山市北区の牟佐地域は945の世帯を抱え、地域の半分以上が市街化区域で、鳥獣被害もほとんどなかったが、近年、イノシシによる農作物等への被害が出始めていた。これに対し、町内会が中心となって捕獲活動を行い、副産物としてのジビエ肉や皮革を地域交流に有効活用している。

【活動の動機・発展過程】

- 平成14年頃から牟佐町内でもイノシシが用水路等を壊す被害が出始め、猟友会に捕獲をお願いするしかなかったが、平成20年から捕獲柵(囲いわな)を無償貸与してくれるアドバイザーと交流が始まり、町内会として捕獲柵の設置を行ったことを契機に、以降、地域住民の協力を得て5基の捕獲柵による捕獲を実施することとなった。
- 捕獲柵設置により毎年10~20頭のイノシシ等が捕獲され、猟友会の協力を得て肉に加工し、町内会イベント等でジビエ肉料理として消費していたが、皮革の加工に取り組んでいる「MATAGIプロジェクト」の協力を得て、平成28年からイノシシ等の皮革も利活用する取組が始まった。

【活動の内容】

- 町内会が実施する一連の鳥獣被害対策を、「『産地牟佐』にこだわった地域活性化」というテーマとして、岡山市が推進する「区づくり推進事業」に応募した。
- 子供向けの地域交流会で、ジビエ料理に加え、鳥獣皮革を利用したネームタグ作りに取り組んだ。
- 大人向けレザークラフト教室を開催し、ジビエ料理や小銭入れ作りに取り組み、参加者からは好評を得た。

【活動の成果】

- 町内で捕獲したイノシシは、肉はもちろん皮革も利用した。
- 公的支援には限界がある中、専門家と地域住民の協働により成果をあげた。

【今後の活動方向】

- 地元産の皮革加工品について、コミュニティービジネス化が出来るかどうか研究を進める。



イノシシ肉のジビエ料理試食



イノシシ皮革のレザークラフト教室

株式会社 四季美谷温泉

・株式会社 四季美谷温泉(徳島県那賀町)

シカ等の被害に悩まされていた木頭ゆずの産地で、株式会社 四季美谷温泉では「木沢シカ肉等加工施設」の管理運営を行うとともに、自社レストランでジビエ料理の提供を行う他、徳島県や徳島文理大学と協力しながらジビエの普及を促進している。

【活動の動機・発展過程】

- 那賀町は、駆除したシカの有効活用を考え、平成21年度に「木沢シカ肉等加工施設」を建設。同施設を管理受託した株式会社 四季美谷温泉が、ジビエ料理として色々なメニューを開発し、県内外の観光客に提供している。

【活動の内容】

- 徳島県の「うまいよ！ジビエ料理店」の第1号として平成25年度に認定され、県内ジビエの消費拡大に大きく寄与している。
- 平成25年度から、毎年一度、「木沢鹿の森ジビエフェスタ」を開催し、ジビエ料理の提供と鳥獣被害状況のパネル展示を行うなど、啓発活動を行っている。
- 平成27年度及び28年度には、徳島文理大学と協力し、シカ肉料理の新メニューの開発やシカによる食害の現状視察を行い、鳥獣被害の現状と駆除したシカの有効活用について、勉強会・意見交換会を実施した。大学と協力した取組は現在も継続。
- 徳島県庁や徳島文理大学の食堂で、ジビエ肉メニューが期間限定で提供されるなど、普及啓発活動が行われ、それがマスコミに取り上げられてPR効果を高めている。
- 平成27年度、シカ肉加工で全国初のハラール認証を取得した。

【活動の成果】

- ジビエの普及促進につながった。
- シカによる農作物被害が軽減された。

【今後の活動方向】

- シカ肉を使った加工品、お土産等の種類を増やし、ジビエの普及促進に努めていく。また、関連イベントを定期的に開催し、観光客の増加を目指す。



那賀町木沢シカ肉等加工施設



ハラール認証